

◆ 2022 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 かわごえ里山イニシチブ

25A-10

代表者：代表理事 増田 純一

URL : <http://kawagoesatoyama.ciao.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

農薬や化学肥料は、労働力を削減し、効率的なお米作りを可能にした一方、ネオニコチノイド系の農薬や化学肥料の弊害が取りざたされ、2021 年度に農林水産省では、ネオニコチノイド系の農薬を極力抑える減農薬・減化学肥料による生物多様性有機農法の方向性が示されました。この方向を見据え、早くから環境や生きものにやさしい生物多様性農法による「生きもの育む田んぼプロジェクト（田んぼPJ）」に取り組んできました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2022 年度も会員数約 70 名、田んぼPJ 参加者 36 名で活動が始まりました。3 月から田んぼ整備に入り、苗床づくりや種の温湯消毒を行いました。4 月 9 日は恒例の地域連携で行う堀さらい（地元住民約 60 名、里山会員 7 名）を行い、同時に環境のバロメータである養蜂もスタートしました。5 月の連休は緑肥としてのレンゲが満開となり、レンゲ祭りとして田んぼを開放しました。5 月 7 日の種まき（約 20 名）から育苗が始まり、6 月上旬から機械植えによる田植えを開始しました。7 月 2 日には恒例の生きもの観察会をコロナ禍ということもあって自主参加で実施しました（15 名）。この他、蜜源や田園風景となるひまわりの種まき大作戦（延べ 40 名）、8 月 28 日かかしづくり（15 名）、9 月 3 日は案山子や田んぼを背景にして、山田音頭踊りが披露されました。

11 月初旬には、レンゲの種まき（延べ 25 名）を行い、12 月にしめ縄づくりのミニイベント（15 名）、12 月 27 日は川越八幡宮奉納用の大しめ縄奉納（5 名）、1 月 15 日に稲作文化の伝承として、マコモ葉の野焼きに合わせてどんど焼きと繭玉づくりイベントを開催しました。

3. 活動の成果

地域連携で地域に根ざした田んぼをフィールドにした諸活動を遂行することができました。特に、田んぼ活動は、助成による農業資材や除草機などにより効果的に行うことができました。土壌解析の結果、多様な土壌バクテリアが確認され、環境保全型農業が地球温暖化防止に貢献していることが分かりました。また、広報面では日本工学院大学のマンガ学科と連携して、生物多様性農法を分かりやすくマンガにしました。全般的に、助成金により都会型農村環境を活かした健康で豊かな地域づくりの田んぼPJ を行えました。

4. 今後に残された課題

経済的基盤の確立があり、課題解決の具体策として障がい者就労施設と農福連携によるオーガニックマーケットへのマコモ製品の参入で経済的に WinWin の関係を目指します。この他、田んぼを平たん化していくという田んぼ整備上の残された課題があります。

